

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

より良い社会のための税

皆野町立皆野中学校 一年 岸 奏和

税金はなくてはならないものです。学校で使う教科書も税金からでてるし、秩父市では高校生以下の医療費も税金で支払われています。大災害の復興支援金も税金があるからできることです。

しかし税金は「納める」よりも「取られる」というマイナスイメージをもつ人が多いのも事実です。「税」を国語辞典で調べると、「昔、統治者が人民から取り立てた、布、金銭、年貢。今は国家や地方公共団体が国民から強制的に徴収する金銭。」と、ありました。

「年貢」や「強制的」という言葉からは良い印象を受けません。では、現代の税と江戸時代の年貢は同じと考えてよいのだろうか。年貢は農民が領主に米を納め、それを藩が商人に売ってお金に換え、藩の財政に使うものです。これは武士のために使われるお金であって、納める農民に直接利益はありません。それに対して税は、最初に書いたように私たちが生活する上でとても役立っています。それなのに税に対するマイナスイメージが強いのです。

一方北欧では、税率が20パーセント以上ととても高いのに、国民は充実した生活を送り、不満をあまり感じていないように思われます。それは、学校や病院が無料であるなど、福祉が充実している、それを支えているのが税だということを国民が理解しているからだと思います。日本で税に対するイメージが悪いのは、自分たちに利益が環ってきている実感がないからではないでしょうか。税がどのように使われているかわからないので、一方的に

取られているような感覚になっているのだと思います。

なので政治は、もっと税金がどんなふうに使われているか、国民に発信する必要があると思います。国民も、自分たちが納めた税金がどのように使われているのかを、チェックするべきです。自分が働いて得た大切なお金から払うものなので、当然適正に使われるべきだし、また、使われ方に納得していないといつまでも不満が残って、豊かな心で生活できないからです。

しかし、充実しているように見える北欧にも問題があります。高い税金に耐えかねて、国外に出てしまう若者もいて、さらに高齢化が進む一因となっているそうです。また、失業保険などの保障が充実しているのですが、仕事に就かなくても生活できてしまい、働かない人が増えています。そうなると税収も減るし高い税金を納めている人との不公平感も大きくなります。高すぎる税率も、行きすぎた社会保障も、どちらも問題なのです。私達も税と福祉のちよūdいバランスを考えていかなければなりません。

これから私達は税を納める立場になります。今後も税について関心を持ち続けてより良い社会の実現に向けて、努力したいです。